

経営とは営みを経て目的・目標を達成すること

—佐野短期大学「経営実践特別講座」で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 佐野短期大学には経営情報学科という学科があり、1年生向けに「経営実践特別講座」を開講しています。この講座では、2学期に企業経営者の方を8名招いて毎週毎週お話をさせていただいているようです。私は、この講座が始まる10年ぐらい前、佐野短期大学でお話をさせていただいています。
3. 先週の水曜日の12月3日には、「経営実践特別講座」で1年生50名～60名の方を対象に私がお話をさせていただきました。今日は、その内容を紹介させていただきます。
4. 学校から与えられた今回のテーマは、「経営とは何かを考える」でした。私は、会社だけでなく、医療・介護、NPO、公共部門などいろいろな事業体・組織が「営みを経て社会的な目的・社会的使命を達成することが経営」と考えています。つまり、「経営とは営みを経て目的・社会的使命(mission ミッション)を達すること」だと思いますので、この講座ではそのお話をさせていただきました。
5. ただ、営みを経るといいましても、実際にはなかなか難しいものがあります。そこで、目的を達成するためにはその手前に「目標」、一里塚、マイルストーンというものをいくつか設定してその「目標」、一里塚、マイルストーンを1つ1つをクリアしながら、最終的に到達点、ゴールである目的・社会的使命を達成することが必要ではないかと思います。
6. ではどのようにして最終「目的」地、ゴールに到達するために1つ1つの「目標」、一里塚、マイルストーンをクリアするのか。そのためにはPDCAを回すことが大事だと思います。PDCAということばは聞き慣れない方もいらっしゃると思いますので、少し説明をさせていただきます。PはPlan(プラン)の頭文字Pで、計画です。Plan・計画を十分に練った上で、Dに回します。DとはDo(ドゥー)で、「実行」ということです。ただし、実行してもすべてがすべて上手くいくとは限りませんので、「実行」の次は計画どおりにいっているかどうかをCheck(チェック)します。つまりCです。Checkとは、日本語でいうと「検証」です。果たして計画どおりに実行されているかどうかを調べて明らかにすることです。その「検証」が済んだら、Action(アクション)・修正をします。PDCAの最後のAは「Action」です。Actionの意味は行動ですが、ここでは修正という行動だと私は考えます。このように、まずPlan・計画を練って、Do・実行し、それが計画どおりにできたかどうかをCheck・検証します。普通はなかなか上手くいきませんので、現状に合わせて直しながらAction・修正をした上での行動を起こします。そして、また計画に戻ります。このP(Plan 計画)、D(Do 実行)、C(Check 検証)、A(Action 修正)をぐるぐる繰り返しながら行い、一つ一つ「目

標」を達成する。つまり、昨日よりは今日、今日よりは明日と、少しずつでよいからもっと仕事をよくしよう・よい仕事をしようと考えながら、計画を練って実行し、検証を行って修正しながらもう一回行動をする、これが経営の1つのやり方ではないかと思います。

7. ところで、少し難しい話になりますが、この Plan (計画)、Do (実行)、Check (検証)、Action (修正) の Plan の前には、「仮説」といいますか、このようなときにはこうなるかもしれない・こういう状況のときにはこんなふうになるかもしれないという仮説を置いて、その上である前提条件や条件を設定したときの最善のやり方を立案することが大事ではないかと思います。つまり、このような状況の下だったらこのような結果になるはずだという仮説を実証するように計画を立て、実行することが大切だと私は考えます。そして、実行し予定どおりの結果が出たかどうかを検証し、もし少しでも計画どおりの結果が出ていなければやり方を変えて、つまり修正をして行動し直すことが大切だと思います。

8. 大事なことは、どんなときにどうなったかということですよね。原因と結果の関係を因果関係といいますが、その因果関係を十分に分析して、その情報、例えばこんなときにはこうなった、こんなときには成功して、こんなときには失敗したという情報を会社全体のメンバーで共有すること。組織全体で、NPO であれば NPO、役所だったら役所の方々と共有して、組織として同じ失敗を繰り返さないということが一番大事ではないかと思います。この佐野短期大学の「経営実践特別講座」では、まずそのようなお話をしました。

9. また、仕事ができるかどうかは、メモを取り続けることができるかどうかで決まります。仕事には、学校の教科書のような教科書はありません。ですから、自分で取り続けたメモを自分専用の教科書といえますか、仕事の上での教科書・テキストとして何回も何回も読み返して十分に理解した上でその内容を確実に身に付けることができるかどうかで、仕事ができるかどうかが決まるのです。このように、メモを取ることは大切です。授業中にノートを取ることはメモを取る練習になりますので、学校に在籍している間にメモを取る練習をしていただきたいということもお話しました。

10. それから、仕事をする上で一番大事なものは心の健康と身体の健康です。健康を維持することは大事で、その形を整えてもらえばよい経営ができたりよい仕事ができたりするということもお話しました。皆さん御承知のように、栃木県、群馬県、茨城県の北関東3県には温泉がたくさんありますよね。心の健康と身体の健康を維持するには、温泉を利用するのも一つの方法だと思います。私は日帰り温泉が大好きなので、よく行っています。日帰り温泉でもよいし、少し余裕があるときは宿泊するとよいと思います。お正月は混むかもしれませんが、年末はすいていますので、ちょっと疲れが溜まったら栃木県、群馬県、茨城県3県の温泉地にどんどん行っていただいて、日帰り温泉に親しんだり、時には宿泊したりして心の健康と身体の健康を維持していただければと思います。リラックスして家族やお友達とのコミュニケーションをよくするのも温泉は絶大の効果を発揮しますよ。

11. 12月3日(水)に、佐野短期大学の「経営実践特別講座」で第1学年の皆様にお話をさせていただきましたので、今日はその内容について紹介させていただきました。